

いつも にこにこ  
**笑顔がいいねっ!!**  
 相・福 いきいき 便い  
 2020 2月 No. 71  
 1月生まれの生き生きさん



**お誕生日おめでとうございます!**

【お名前】

久保 ふみ子 さん

【生年月日】

昭和6年1月26日  
89歳

【お住まい】

相良

【一言】

●今年で「生き生き」七年生！皆様と一緒に頑張ります。



【お名前】

三井 久代 さん

【生年月日】

昭和2年1月2日  
93歳

【お住まい】

福岡

【一言】

●昨年の暮れに病気をしましたが、どうにか治り、皆様とお会い出来る事が出来ました。とても嬉しく思います。

【お名前】

大石 千枝 さん

【生年月日】

昭和8年1月26日  
87歳

【お住まい】

相良

【一言】

●少し物忘れが多くなってきましたが、頑張って「生き生き」へ通います。宜しくお願いしますね。



三井久代さんが生まれた昭和2年の1月には、  
 カレーパンと青い目の人形が登場



●この頃カレーパンが考案されました。東京森下の【名花堂（現カトレア）】が【洋食パン】の名で考案し、この年の1月19日には、実用新案として出願されました。

●またこの頃アメリカから【青い目の人形】3百体が到着し、全国の小学校に親善大使として贈られました。以来1万3千体の人形が贈られる事になります。

画像は人形交換を進めた渋沢栄一氏と青い目の人形です。

渋沢氏は4年後の2024年度に発行予定されている新一万円札に、その肖像が採用されることになりましたね。早く見てみたいですね新一万円札！

●なお、野口雨情が「青い眼の人形」の詩を発表したのは1921年（大正10年）10月のことで（童謡雑誌『金の船』1921年12月号）、人形交換よりも数年さかのぼります。

つまり、野口雨情の「お人形」は渋沢栄一の「お人形」では無いと言うことです。



# 平成元年度の活動記録(1月)



参加者数  
対象者：19名  
協力員：15名

## 第19回 (1月20日) ◎新春ラッキービンゴ大会

リーチ・・・だけど、なかなかビンゴしません！！

●新年最初の生き生きクラブは今年の運だめし？のビンゴ大会でした。  
●でも、これは皆さんも多分初めての経験だったと思います、手作りの「お名前ビンゴ」でしたね。  
●慣れないゲームに最初は皆さんも戸惑ったと思いますが、終了後に皆さんの感想をお聞きしたところ、「面白かった」「またやってみよう」などのご意見がありました。  
●さて、さて皆さんの今年の運勢は如何に？

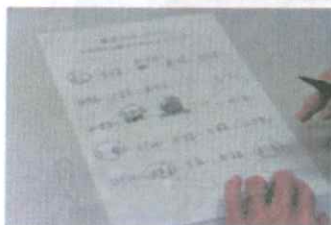
さあ、始めましょう！！「お名前ビンゴ」



↑これがビンゴカード  
全部のマスが空欄です



↑①まず、皆さんのお名前で空欄を埋めます



②次は発表された名前に○を付けていきます



一番は秋原さん

③○が五つ揃ったら「ビンゴ」

### ◎本日のおやつ



お汁粉

↑リア・次は→  
だれの名前が出るかね？

## 第20回 (1月27日) ◎輪投げとダーツで楽しみました

慎重に狙いを定めて、ねらえ高得点！！

参加者数  
対象者：16名  
協力員：16名



先ずは「おこやかエブリデイ」  
でウオーミングアップ

- 今日は「生き生き」の終わる寸前から冷たい雨がポツポツと降って来るようなあいにくの空模様でしたが、「生き生き」の皆さんはチョッピリ熱くなって 輪投げとダーツに挑戦しました。
- レクリエーションでの軽い運動や脳トレは、高齢者の脳機能・身体機能の低下を食い止める事が確認されています。これからも「頭」と「体」を使うゲームを続けていきたいと考えております。ご期待ください。



ねらって！

無理のない運動で  
バランス感覚を養い  
介護予防！

↑西尾会長のまとめ投げ



ネラッテ！

今回は吹き矢の的を使い、矢を手で投げてダーツにしました

### ◎本日のおやつ



スイートポテト・フライ

だっさいぎよ  
獺祭魚



● 季節を表す七十二候では

獺祭魚とは中国由来の七十二候の一つ（雨水初候）で、現代の暦では、2月19日～23日頃にあたります。

出典は、礼記月令孟春の条の「東風氷を解き、蟄虫は始めて振く。魚氷に上り、獺魚を祭り、鴻雁来る」。春になってカワウソが漁をはじめ魚を捕らえることを言ったそうです。

また、カワウソは捕らえた魚を川岸に並べる習性があり、これを祭儀になぞらえて「獺魚を祭る（カワウソうおまつる）」＝獺祭魚なる言葉となりました。

● 古代の文人は

唐代の詩人・李商隱が尊敬する詩人の作品を短冊に書き、左右に並べ散らしながら詩想に耽り、自らを『獺祭魚庵』と号したことから、『書物の散らかる様』という意味に転じました。

● 日本では

獺祭（だっさい）といえば、山口県岩国市の旭酒造（株）の著名な日本酒のブランド名が思い浮かびますが・・・

満34歳の若さで亡くなった正岡子規は、死を迎えるまでの約7年間を結核を患って過ごしましたが、寝返りも打てないほどの苦痛を麻痺剤で和らげながら、俳句・短歌・随筆を書き続け、病床を訪れた後進の指導をし続けました。

そんな子規は『獺祭書屋主人』という別号を用いたりしています。病臥の枕元に資料を多く置いてカワウソのようだったわけですね。子規の命日の9月19日を系瓜忌（へちま忌）あるいは獺祭忌（だっさい忌）といいます。

かわうその まつりみて こよ せた のおく  
獺の 祭見て来よ 瀬田の奥 芭蕉



相良区 区長 大石 和美

いつも笑顔で生き生きと生活している皆さんこんにちは！

私達は団塊の世代と言われ（昭和22年～24年の3年間に生まれた）、5年後の2025年には全国で、おおよそ800万人の人達が後期高齢者となります。

誰もが出来る限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるようにありたいと思います。その時、必要とされるサービスが切れ目なく提供されることを願っています。

さて、去年は元号変更が行われ新天皇・皇后両陛下のもと、新しい時代が始まりました。そして、今年には4年に1度行われるオリンピック開催の年にあたりますね、ご承知のように今年には「2020東京五輪」で熱い夏となるでしょう。昨年12月聖火ランナーが発表され牧之原市内も走るようになったようです。誰かの為に志を持って走る姿に対し、沿道で応援しようと思います。

半世紀前の東京五輪における聖火は「昭和39年10月4日」静岡県内2,622人によりリレーされました。旧相良町では23人の若人が大勢の声援を大きな支えに掛川市日坂地区（日坂トンネル西口まで1,800M）を走りました。

この年は、新相良町が誕生してから10周年の年でした（人口27,284人）。





# 相良でんでは史話 第二十回

大澤寺十五代住職 今井一光

## 《 蕉園渉筆 その十六 》

蕉園渉筆本文 13 鰻・鯉 (うなぎ・こい)



### 原文

鰻鯉多有焉、味不美、取大堰川者、為佳、  
余行部日、啗菊川所産、与都下不異、然不可多得也

### 読み下し

鰻鯉は(遠州にも)多く有る、味は美からず 大堰川で取る者を、佳と為す  
余は部を行く日、菊川に産する所を啗う 都下と異ならず、然し多くを得るべからず也

美からず・うまくない

大堰川・大井川

啗う・喰う

当地のこの頃といえ、希少ともなつたシラスウナギ漁の苦勞の件耳にします。かなり値が張る高級品になりました。遠州ではかつてその養殖産地として名を馳せましたが美食家の小島蕉園も口にしていました。

鰻は調理の方法によってその味を左右させますが、自然界で捕れたものは個体によって味はバラつきがあることは現代人は誰もが知っています。

当時の調理方法について、江戸と当地で差があったのかわかりませんがあまり口に合わなかったようですね。 たまたま菊川で食したものは江戸のものと同様であつたようですが。

なお「大堰川」の記述は古文書にはよく出てきます。

そして京都で大堰川といえ、桂川、渡月橋付近のことをイメージ。

(勝手に現代文訳)

鰻や鯉は遠州でもたくさん獲れるけどあんまり美味くない

その中では大井川産はマアママかな  
辺りの村を回った時、菊川で採れたヤツを食べたら江戸の都と変わらない程美味かつた

ただたくさんは獲れないらしい



### 江戸時代の川魚事情

日本の河川で古くから食用とされてきたのは、アユ、イワナ、ヤマメ、ウグイ、カジカやウナギなど。エビやカニもあります。

また田んぼや池に生息するドジョウやコイ、フナも貴重な食べ物とされてきました。川魚料理は、水清き日本ならではの伝統的な食文化です。

江戸時代当時、天皇がお住まいだった京の都には海がなく川魚は「上」とされていました。

将軍様おひざ元の江戸の町では鯉は利根、忍(おし・現埼玉県行田市)のものが最上で、浅草川(隅田川の吾妻橋から下流の別称)の鯉がそれに続くと言われていたそうです。また、鰻については特に人気のあつたのが浅草川や深川で捕れたものだったそうです。



江戸前大蒲焼 朝桜樓 (歌川国芳)

### これからの いきいき予定

2月17日：頭の体操

3月 2日：ひな祭りを楽しもう

3月16日：一年間を振り返って



皆様のご意見や思い出話をお待ちしております

相・福 いきいきだより

笑顔がいいね!!!

2020年2月3日号

(通算第71号)

発行

相良・福岡 生き生きクラブ